

身延高校と山梨県立大学の連携授業

山梨県立身延高等学校



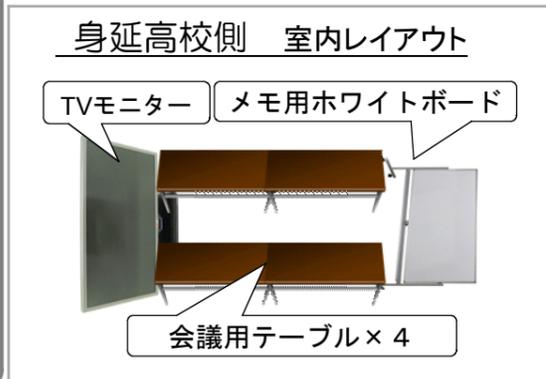
MINOBU HIGH SCHOOL MINOBU HIGH SCHOOL MINOBU HIGH SCHOOL MINOBU HIGH SCHOOL MINOBU HIGH SCHOOL

システム構成図 (身延高校側)

身延高校側 TV会議システム(常設)



身延高校



総合教育センター



県立大学飯田キャンパス

実施内容と回数（H27）

回数	内容
第1回	オリエンテーション
第2回 ～ 4回	未来の私、未来の身延（峡南地域） 田舎のイトコ、どう生かすのか ありのままの身延（峡南地域）であり 続けるためには
第5回 ～ 9回	ユニバーサルデザインについて インバウンド観光について フィールドワーク
第10回	「発表」

目指す生徒像

- ◎地域の中にありながら、深く思索する力を有し、発想が豊かで、物事を建設的に組み立て、課題を解決できる(実現できる)力を持った人物。
- ◎日本や世界に向けた情報の発信手段を考え、人と関わりながら実現できる人物。
- ◎国や自治体などに頼らないライフスタイルの実現ができる人物。

実施目的

地域の将来を考える人材の育成を目的とし、峡南地域の課題等を自ら探り出し、活気に満ちた地域社会の在り方を考える。さらに、自ら考える力、一歩踏み出す力、考え抜く力等を養うことを目的とする。

また、地域に提言することで、自らで地域社会を変革する力を身につけさせる。

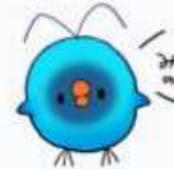
現状と課題

今回の連携授業は、生徒が将来地域の活性化を担うような人材育成・啓発を主な目的としている点から、受け身の姿勢で授業に臨んでは意味がなく、いかに参加型授業にしていくかが課題である。

そのため、フィールドワークの導入やグループワークを取り入れた授業を展開していくことも望ましいと考える。

生徒の感想

先生に質問したり、意見を言うことをしていたら、日常生活や普段の授業でも言えるようになった。



行動力が向上し、高大連携のフィールドワークやその他の日常生活においても自主的に行動するようになった。町や県のことをとても身近になった。

一つの物語に対して、固定観念を持たず、色々な方向から見るようになった。

皆で考えて行動した結果、役場の人たちは私たちの意見を理解してくれました。「何でも」まではいなくても、「私」が動くことで変えられるんだという希望が持てた。

平成27年度のまとめ

答えのない課題に対して、集団で考えをぶつけながら、よりよい解を見いだす活動を通じて、「0から1を作り出す力」「一歩踏み出す力」を身に付け、自分の社会環境の変革を目指すということに重点を置いている。今年度は、身延町への政策提言という形でそれが実現された。自分たちの取り組みが、実社会へ何かしらの形として反映されたことは生徒にとって大きな達成感となった。このような事例は全国的にも希有である。何よりも「自分の住んでいる町を少しでも良くしたい」という強い気持ちで、毎回の授業に熱心に取り組んだことが最も大きな成果である。

生徒たちは、授業から確実な手ごたえを得ている。年代や環境が違う人とのかかわり方、グループでの協力、日常生活への意欲の向上、そして自分と自分の生活する町（社会）とのつながりの深さを再確認している。そして仲間を作って集団で行動すれば少しでも環境が変えられることがわかった。実社会における問題解決、そしてその策の発信を行う機会というのは、非常に限られている。そこにおいて、この取り組みの価値は計り知れない。